

Q 今、高校では、どんな家庭科の授業が行われているのですか。  
そして新学習指導要領によって、家庭科はどう変わるのでしょうか。

A 「自分の過去・現在・未来を考える」「食糧自給率を上げよう」「環境に優しい住宅とは何か」

これらは、高校の家庭科で扱われているテーマの一例です。

家庭科の実習授業においては、調理実習や被服実習に加えて、保育所・幼稚園・福祉施設等で保育や福祉の体験実習に取り組んでいる学校も多くあります。

高校の家庭科では、空間軸で言えば、身近な環境と地球レベルの世界とのつながり、時間軸で言えば、ゆりかごから墓場までを学びます。つまり高校生は家庭科の学習を通して、自分と自分を取り巻く生活を見つめ直し、よりよい生き方を選び取る力が身に付くようになるのです。

そして、キャリア教育にも家庭科は大きく関わっています。調理を学んだことでパティシエを志したり、住居を学んだことでインテリアデザイナーを志したり、といった進路選択に結び付いた例もあります。

また、新学習指導要領総則においても、新たに「食育」の重要性が強調されたことから、これまで以上に家庭科の担う役割が重くなってきます。

「持続可能な社会」や「リスク管理」も、新学習指導要領における家庭科のキーワードです。いずれも、現代を生きる高校生には不可欠な内容です。

